



# 2018年3月期 決算説明会

決算概要および中期経営計画

2018年5月22日

**ダイワハウホールディングス株式会社**

(証券コード：3107)

# 目次

1. 会社概要と各事業のご紹介
2. 2018年3月期 通期連結決算概要
3. 2019年3月期 通期連結業績予想
4. 新中期経営計画「イノベーション21」  
第三次計画について

# 会社概要と各事業のご紹介

# 会社概要

名称（商号）	ダイワボウホールディングス株式会社
（英文名称）	Daiwabo Holdings Co.,Ltd.
本社所在地	〒541-0056 大阪府中央区久太郎町3丁目6番8号
設立日	1941年4月1日
連結従業員数	5,650名（2018年3月末現在）
資本金	216億9,674万4,900円
株式	東証1部上場 証券コード3107
事業内容	(1) I T インフラ流通事業：コンピュータ・周辺機器・ソフトウェアの販売および物流サービス業 コンピュータ機器等の導入・保守・修理サービス業 (2) 織 維 事 業：化合織綿、不織布製品、産業資材関連製品、 衣料・リビング製品用テキスタイルおよび最終製品の製造販売業 (3) 工作・自動機械事業：工作機械、自動機械および鋳物製品の製造販売業 (4) そ の 他 事 業：ホテル業、エンジニアリング業

# 会社概要 ダイワボウグループ

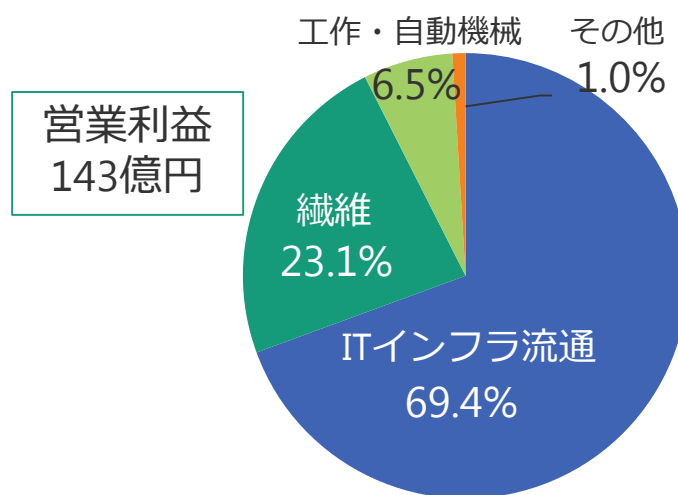
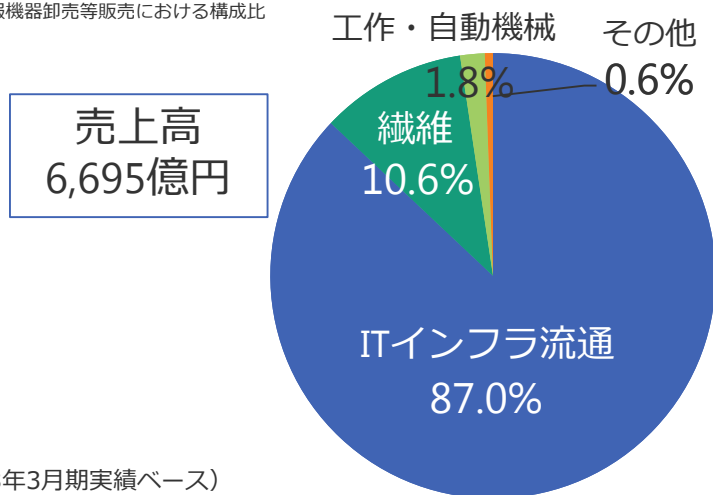
ITインフラ流通事業	ダイワボウ情報システム株式会社	
	ディーアイエスサービス&サポート株式会社	株式会社Z O A
	ディーアイエスソリューション株式会社	
繊維事業	大和紡績株式会社	
	ダイワボウポリテック株式会社	P.T. DAIWABO SHEETEC INDONESIA
	ダイワボウレーヨン株式会社	P.T. DAIWABO NONWOVEN INDONESIA
	ダイワボウプログレス株式会社	ダイワボウノイ株式会社
	カンボウプラス株式会社	ダイワボウアドバンス株式会社
	朝日加工株式会社	西明株式会社
	ケービー産業株式会社	王子ファイバー株式会社
	カンボウキャンパス・カッティング・サービス株式会社	Daiwabo Hong Kong Co., Limited
	ダイワボウスピンテック株式会社	蘇州大和針織服装有限公司
	ディーエヌプロダクツ株式会社	大和紡工業（蘇州）有限公司
	ダイワマルエス株式会社	P.T. PRIMATEXCO INDONESIA
P.T. DAIWABO INDUSTRIAL FABRICS INDONESIA	P.T. DAIWABO GARMENT INDONESIA	
工作・自動機械事業	株式会社オーエム製作所	
	株式会社オーエム機械	O-M (U.S.A.) ,INC.
	オーエム金属工業株式会社	欧安睦（上海）商貿有限公司
その他事業	オムテック株式会社	
	ダイワボウアソシエ株式会社	ダイワエンジニアリング株式会社
	ダイワボウエステート株式会社	ダイワボウライフサポート株式会社
	大和紡観光株式会社（霧島国際ホテル）	カンボウ企業株式会社

# 主な事業内容

ITインフラ流通事業 「FACE to FACE」	繊維事業 「夢と未来をかたちにする」	工作・自動機械事業 「匠の精鋭技術」
<p>中核企業 : ダイワボウ情報システム (DIS)</p> <p>特徴 : 国内最大級のIT系ディストリビューター</p> <p>強み : 地域密着・全国網羅(拠点90カ所) 豊富なアイテム(約210万アイテム) 仕入れ先(約1,200社) ローコストオペレーション</p> <p>シェア<sup>(1)</sup> : パソコン 19.3%(198.6万台) サーバー 13.6%(6.0万台)</p> <p>協業企業数: 約19,000社</p> <p>顧客<sup>(2)</sup> : ビジネスユーザー 84.6% パーソナルユーザー 15.4%</p>	<p>中核企業 : 大和紡績</p> <p>特徴 : 幅広く繊維素材、繊維製品を扱う ライセンスブランドの製造・販売</p> <p>強み : 衛生材料用途の合繊綿、機能性レーヨン綿 産業用重布、カートリッジフィルター カジュアル衣料製品</p> <p>顧客 : 大手衛生材料メーカー 大手不織布メーカー 大手SPA・衣料品量販店</p> <p>ライセンスブランド 紳士・婦人服衣料 : 「FILA」「T&amp;C」 子供服 : 「Champion」「Hanes」「Wilson」</p>	<p>中核企業 : オーエム製作所</p> <p>特徴 : 世界有数の立旋盤 省力化自動包装機が主力</p> <p>強み : 超大型機から小型精密機まで対応した立旋盤 梱包ラインにフレキシブルに高速で安定した自動機械</p> <p>顧客 工作機械 : 航空機エンジン、インフラ産業等 自動機械 : 食品・医薬品、日用品産業等</p>

(1) 2018年3月期暫定値 Source:MM総研

(2) 情報機器卸売等販売における構成比



(2018年3月期実績ベース)

# ITインフラ流通事業 ダイワボウ情報システムのビジネスモデル

## 地域密着の営業体制

お客様により近く、もっと深く  
DISは「顔の見えるディストリビューター」です。



全国 90拠点の営業網

全国19,000社の  
販売パートナー

# ITインフラ流通事業 ダイワボウ情報システムのビジネスモデル

- 全国約90拠点の営業網によるパートナー企業との協業体制
- 取扱アイテム数210万以上から最適な商品やサポートを提供

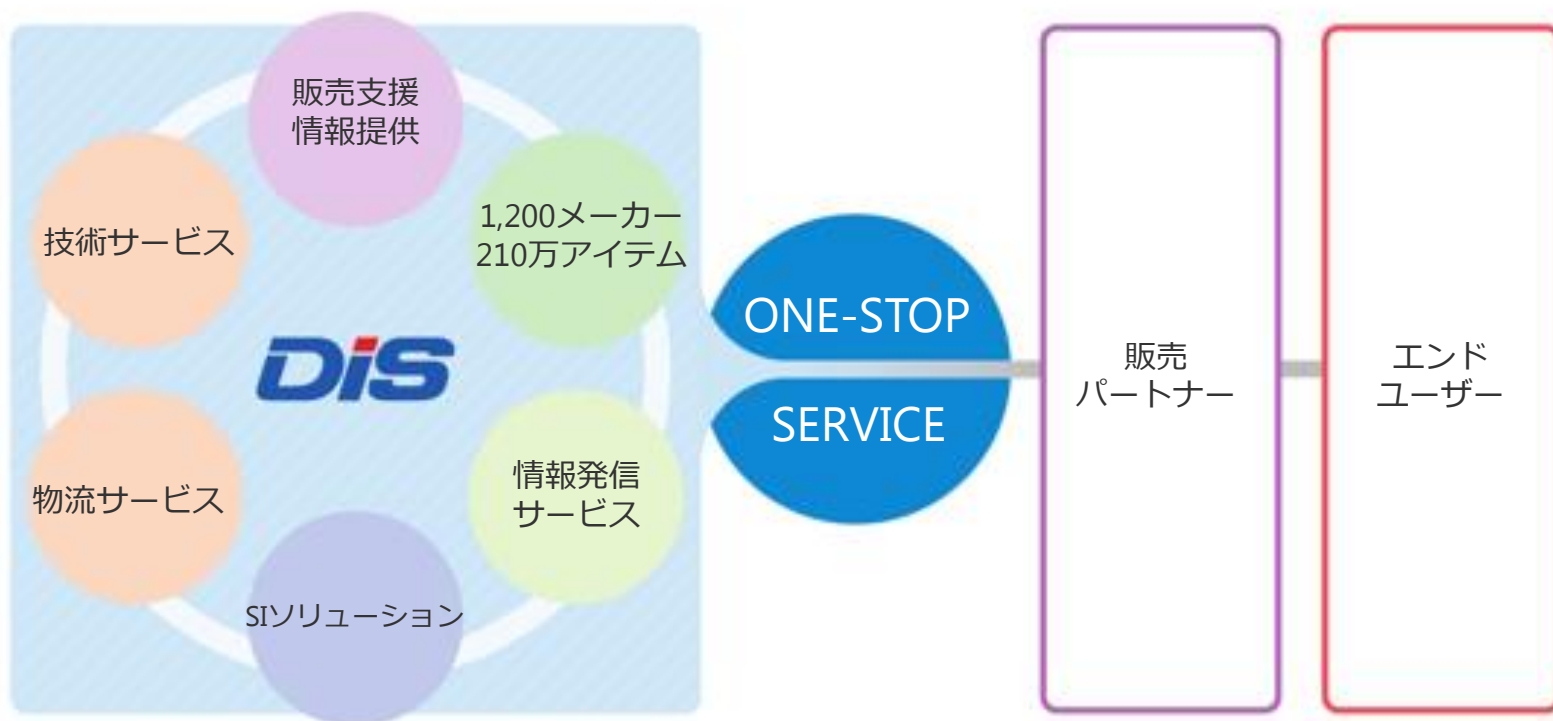




# ITインフラ流通事業 ダイワボウ情報システムのビジネスモデル

## ワンストップサービス

DISは、ディストリビューター機能に加えて、  
様々なサービスを組み合わせた トータル提案を実現します。



# 2018年3月期 通期連結決算概要

# エグゼクティブ・サマリー

- 連結売上高、利益のそれぞれで過去最高を更新
- ITインフラ流通事業の売上高・営業利益は過去最高を更新
- 繊維事業では衛生材料用原綿、衣料製品の販売拡大にて増収
- 工作・自動機械事業は下期に回復、計画を上回る売上高、利益を達成

# 2018年3月期 通期連結業績概要

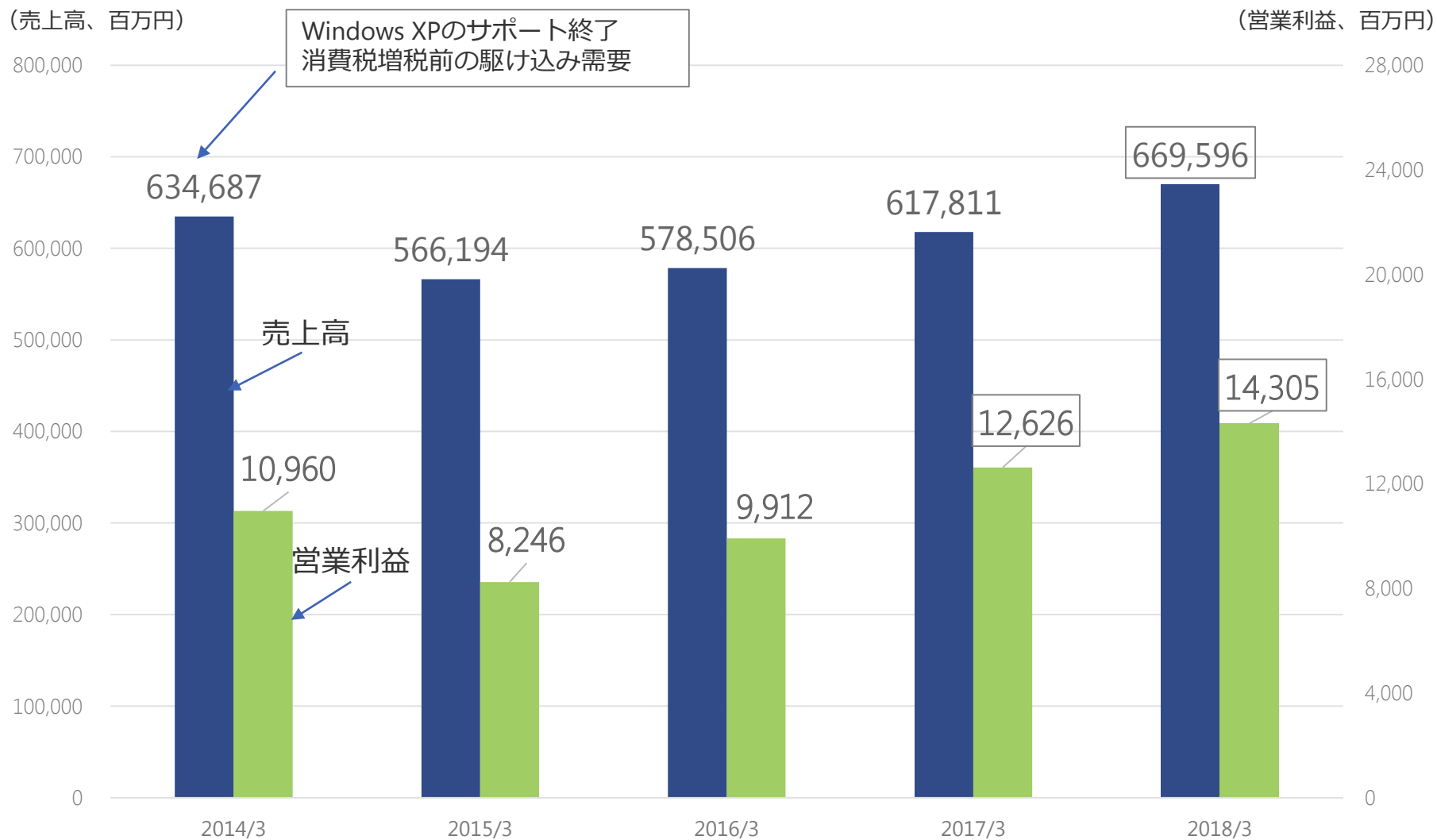
- 売上高、利益ともに期中修正予想を上回り着地
- 堅調な国内企業のIT投資とアジアを中心とした繊維需要拡大で増収
- 売上高の増加により販管費率は対前年で0.5ポイント低下

(百万円)

	2016年3月期		2017年3月期		2018年3月期					
	(実績)	構成比	(実績)	構成比	(実績)	構成比	増減額	対前期比	修正値(注)	対修正比
売上高	578,506	100.0%	617,811	100.0%	669,596	100.0%	51,784	108.4%	654,600	102.3%
売上原価	528,537	91.4%	562,204	91.0%	611,671	91.3%	49,466	108.8%	-	-
販売管理費	40,056	6.9%	42,980	7.0%	43,618	6.5%	638	101.5%	-	-
営業利益	9,912	1.7%	12,626	2.0%	14,305	2.1%	1,679	113.3%	14,200	100.7%
経常利益	9,679	1.7%	12,572	2.0%	14,291	2.1%	1,718	113.7%	14,000	102.1%
親会社株主に帰属する当期純利益	5,266	0.9%	7,469	1.2%	10,531	1.6%	3,062	141.0%	9,500	110.9%

(注) 2017年11月7日に発表した2018年3月期予想

# 過去5年間の売上高と営業利益の推移



# 事業セグメント別業績

- 売上高では全セグメントで予想を上回り着地
- 営業利益では全セグメントにおいて対前期比の増益を達成

(百万円)

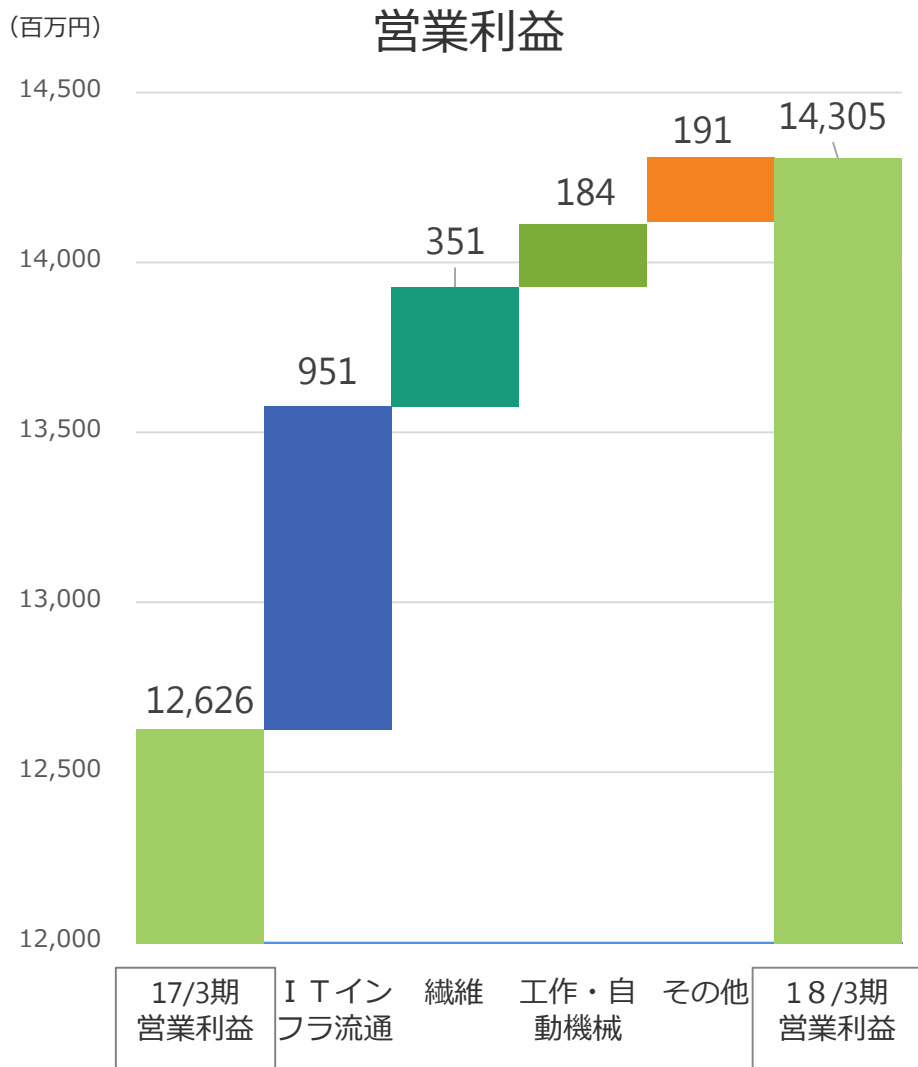
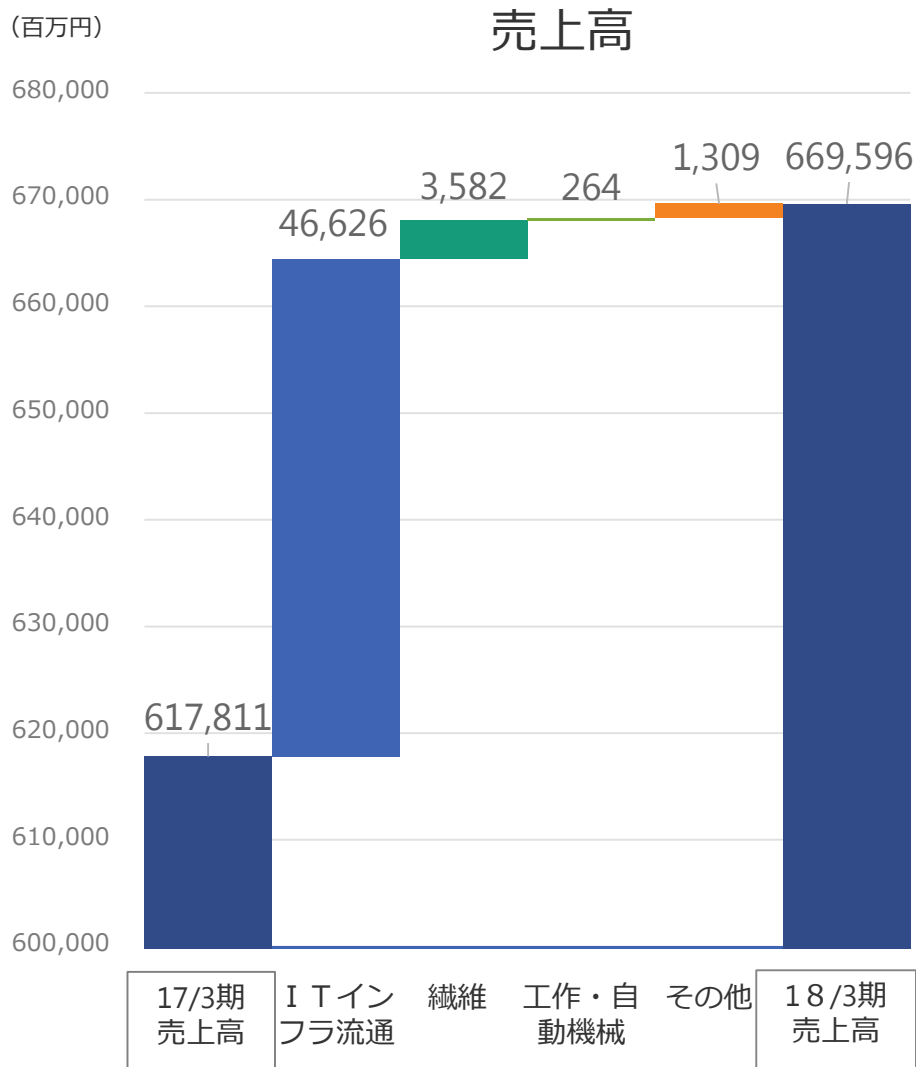
	2016年3月期 (実績)	2017年3月期 (実績) (注1)	2018年3月期 (実績) (注1)	増減額	対前期比	修正値 (注2)	対修正比
売上高	578,506	617,811	669,596	51,784	108.4%	654,600	102.3%
I Tインフラ流通事業	494,939	536,073	582,700	46,626	108.7%	570,000	102.2%
繊維事業	66,016	67,438	71,021	3,582	105.3%	69,000	102.9%
工作・自動機械事業	12,788	11,708	11,972	264	102.3%	11,900	100.6%
その他事業	4,761	2,592	3,902	1,309	150.5%	3,700	105.5%
営業利益	9,912	12,626	14,305	1,679	113.3%	14,200	100.7%
I Tインフラ流通事業	6,127	8,976	9,927	951	110.6%	10,300	96.4%
繊維事業	2,828	2,957	3,309	351	111.9%	3,200	103.4%
工作・自動機械事業	820	747	931	184	124.6%	700	133.1%
その他事業	133	△ 55	135	191	-	0	-
調整額	1	1	1	-	-	-	-

(注1) 当期より「その他事業」のゴム製品製造販売業を「繊維事業」に区分変更しております。2017年3月期のセグメント情報は、変更後の区分に基づき、組み換えを行っております。

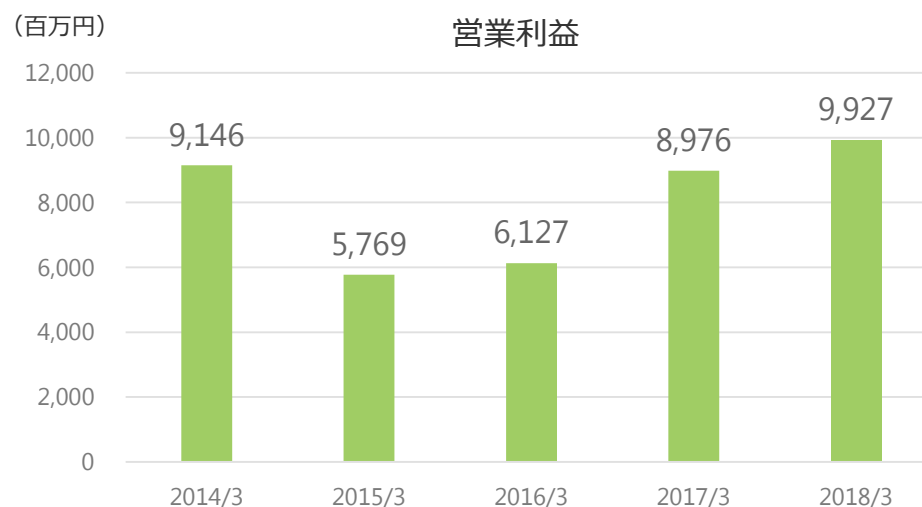
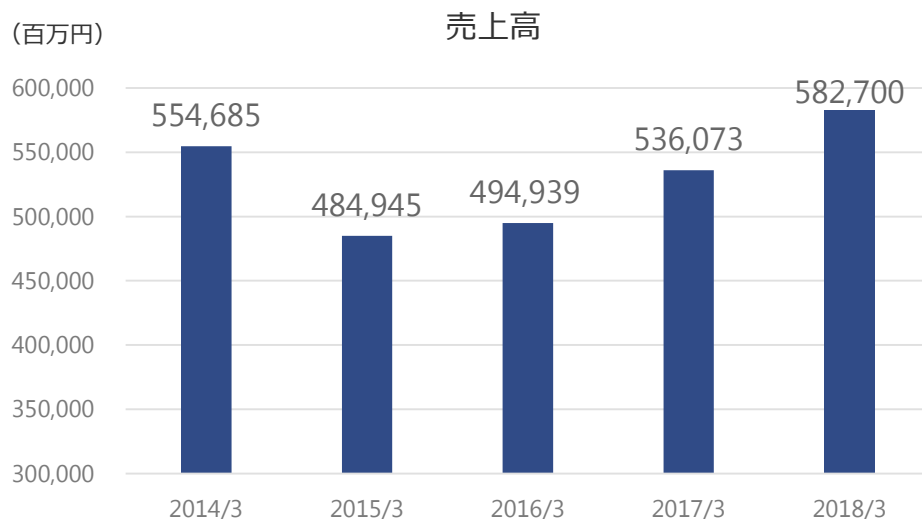
(注2) 2017年11月7日に発表した2018年3月期予想。



# セグメント別 売上高と営業損益（増減額）



# ITインフラ流通事業



## 事業環境・需要動向

- 法人市場：堅調な企業業績を背景にIT投資は底堅く推移
- 文教向け：文部科学省のICT環境整備方針に基づき、タブレットPCや大型表示装置及び無線LAN環境の整備が進む
- 個人向け：PCは、買い替え需要の停滞で台数・金額で減少、一方、スマートフォンは、買い替え需要が堅調

## 実績

- 売上高：582,700百万円（前期比+8.7%）過去最高
- 営業利益：9,927百万円（前期比+10.6%）過去最高
- PC出荷台数：1,986千台（シェア：19.3%）
- サーバー出荷台数：60千台（シェア：13.6%）

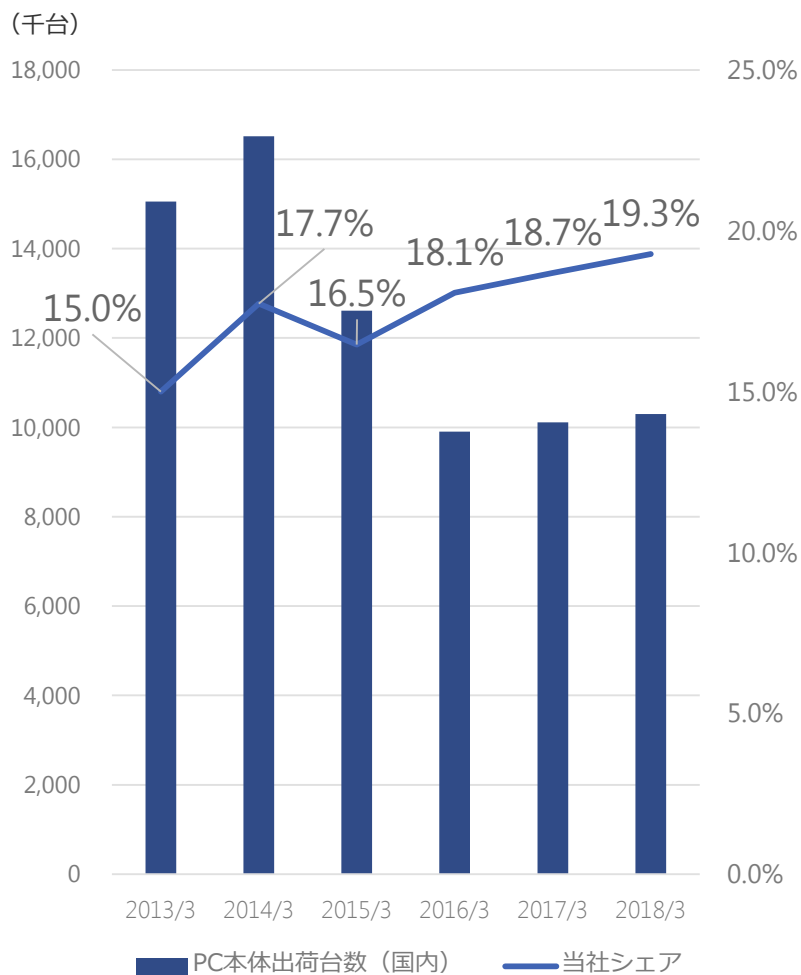
## 課題

- Windows7のリプレース需要の囲い込み
- サブスクリプションビジネスとして「iKAZUCHI(雷)」の普及
- 文教専任部隊の販売支援によるICT環境整備の推進



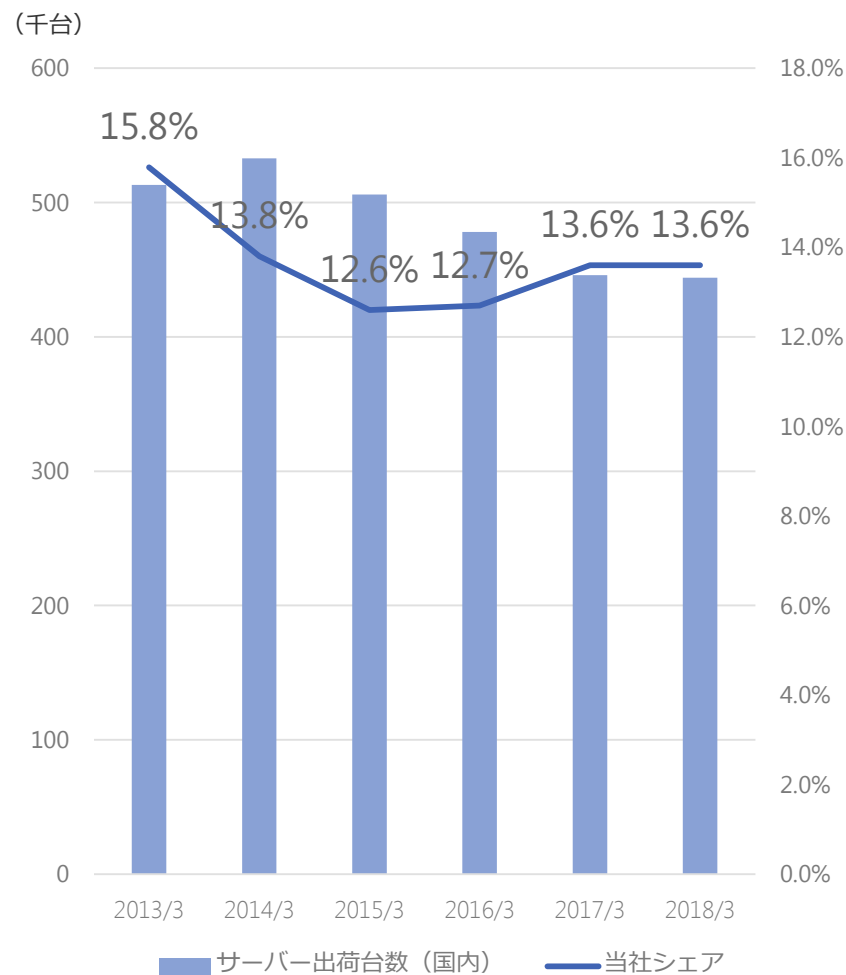
# 国内PC及びサーバーの出荷台数

## 国内PC出荷台数と当社シェア



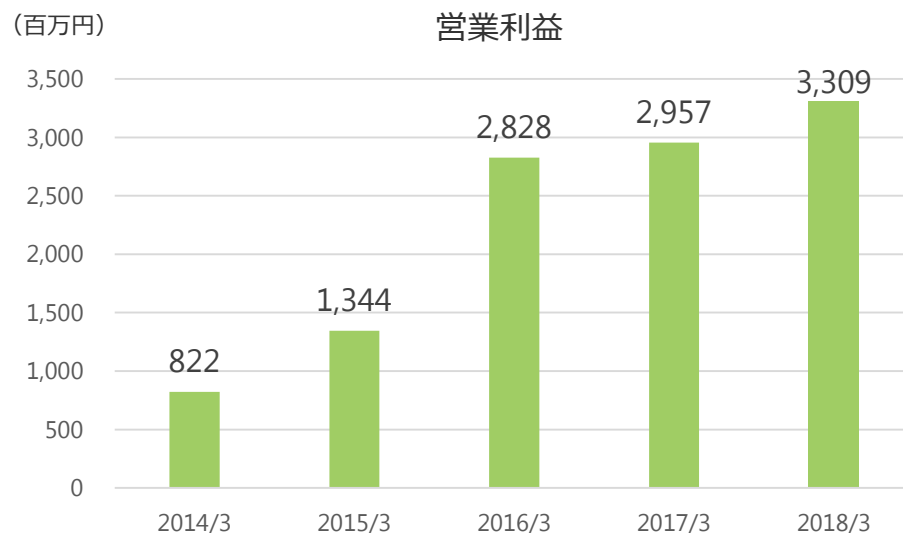
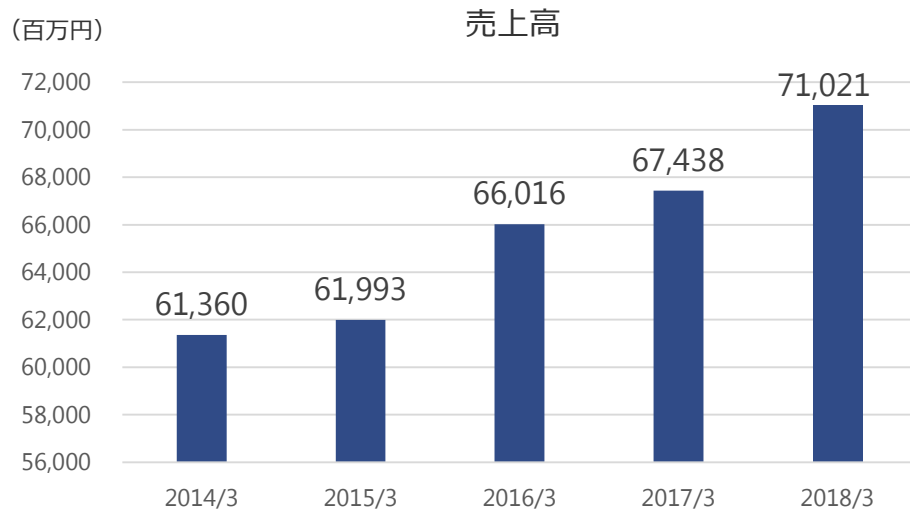
出典：MM総研

## 国内サーバー出荷台数と当社シェア



出典：MM総研

# 繊維事業



## 事業環境・需要動向

- 合織部門：衛生材料用原綿はアジアで市場拡大  
ウェットシート伸長、コスメ商品も堅調
- レヨン部門：不織布用原綿の需要が差別化素材で拡大  
原材料費の高騰が収益を圧迫
- 機能製品部門：半導体業界向けのフィルターの需要が拡大
- 樹脂部門：産業用シートの販売拡大も原油高が収益を圧迫
- 衣料製品部門：製品OEMの大型案件を受注

## 実績

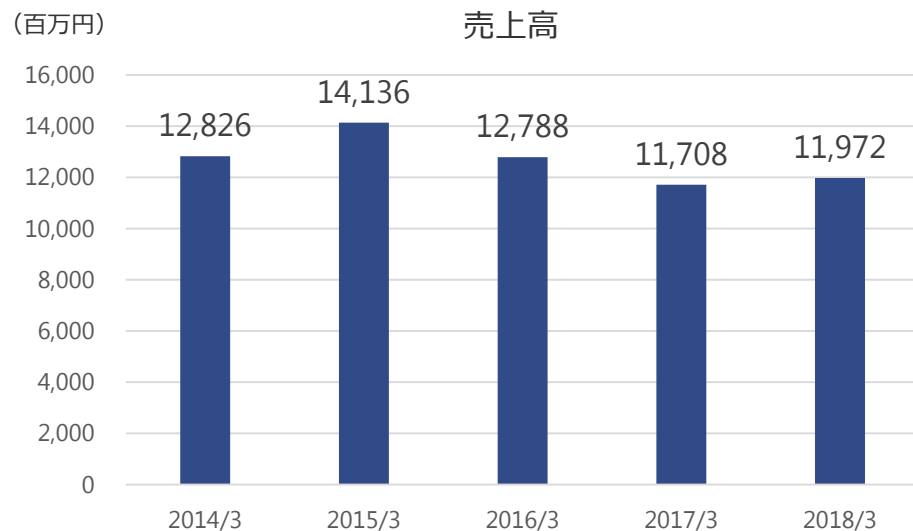
- 売上高：71,021百万円（前期比+5.3%）
- 営業利益：3,309百万円（前期比+11.9%）
- 合織部門：衛生材料用原綿の販売拡大により、増収増益
- レヨン部門：不織布用原綿の販売増により増収となるも、  
原材料費の高騰により減益
- 衣料製品部門：製品OEMを中心に衣料製品の販売増により  
増収増益

## 課題

- 合織部門：合織綿増強投資後の円滑な稼働
- レヨン部門：国内外向け機能性レーヨン綿の拡大

2014年3月と2015年3月の売上、営業利益は化合織・機能資材事業と衣料品・生活資材事業の合計  
2017年3月と2018年3月はゴム事業の売上高、営業利益を加算

# 工作・自動機械事業



## 事業環境・需要動向

- 工作機械部門：17年度 日本工作機械工業会受注総額は前年度比38%増加  
当社の受注高は前期比37%増加
- 自動機械部門：17年度 日本包装機械工業会生産高計画は前年度比1.9%増加  
当社の受注高は前期比13%減少

## 実績

- 売上高：11,972百万円（前期比+2.3%）
- 営業利益：931百万円（前期比+24.6%）
- 工作機械部門：航空機エンジン、鉄道、建設機械等への売上が増加
- 自動機械部門：医薬品、食品、製菓等への売上が堅調に推移

## 課題

- 工作機械部門：繁忙期における収益体制の確立  
部材納期の長期化による生産への影響
- 自動機械部門：生産体制の増強、効率化の推進  
客先ニーズに合わせた省力化機械の提案

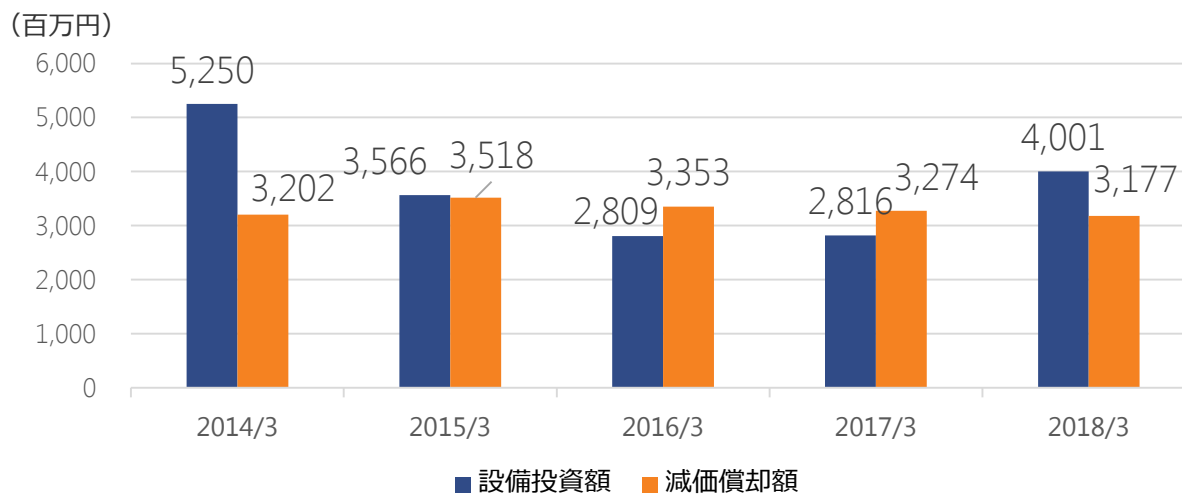
# 連結貸借対照表（概要）

（百万円）

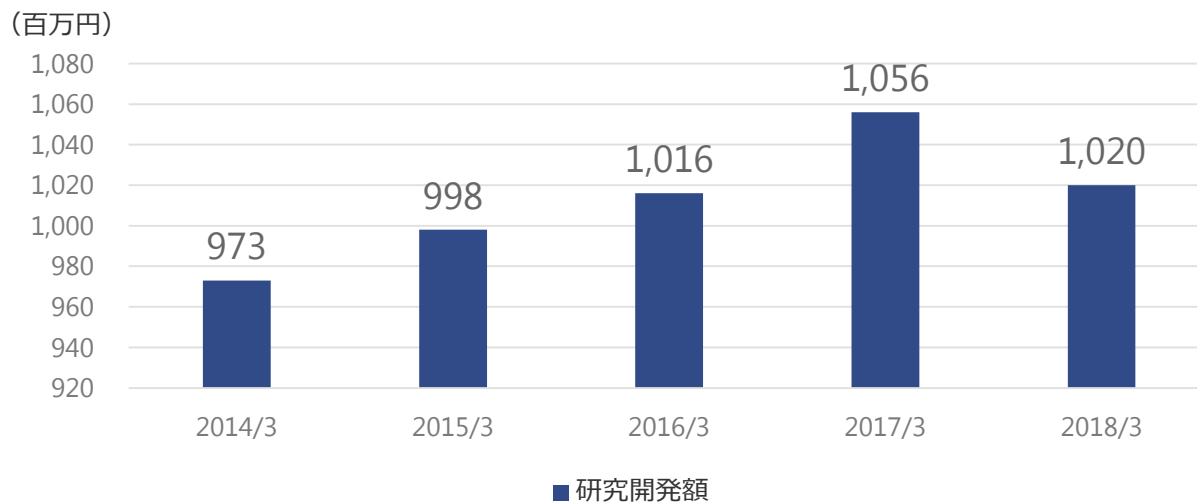
	2016年3月期	2017年3月期	2018年3月期	増減額	増減要因
流動資産	184,451	201,104	231,865	30,761	売上増及び期末が休日による売掛債権の増加
固定資産	61,296	58,426	54,820	△ 3,606	資産売却による土地・建物の減少 償却によるのれんの減少
資産合計	245,747	259,531	286,685	27,154	
流動負債	152,464	163,233	183,872	20,639	仕入増及び期末が休日による買掛債務の増加
固定負債	36,251	32,394	29,665	△ 2,729	長期借入金の減少
負債合計	188,716	195,628	213,537	17,909	
株主資本	58,202	64,417	73,186	8,769	利益計上による増加
純資産合計	57,031	63,903	73,148	9,245	
負債純資産合計	245,747	259,531	286,685	27,154	

# 設備投資額 減価償却額 研究開発費

## 【設備投資額・減価償却額】



## 【研究開発費】



# 連結キャッシュ・フロー（概要）

（百万円）

	2016年3月期	2017年3月期	2018年3月期	増減要因
営業活動によるキャッシュ・フロー	9,477	5,007	10,046	当期純利益による増加 売上債権の増加による減少 仕入債務の増加による増加
投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 2,645	△ 1,838	713	有形固定資産の売却による収入増 有形固定資産の取得による支出増
フリーキャッシュ・フロー	6,832	3,169	10,759	
財務活動によるキャッシュ・フロー	△ 4,920	△ 5,201	△ 4,013	有利子負債返済額の減少
現金及び現金同等物の期末残高	16,161	14,042	20,777	
借入金期末残高	43,378	39,452	37,198	

# 2019年3月期 通期連結業績予想

# 2019年3月期 通期連結業績予想

■ 売上高・営業利益・経常利益で過去最高を予想

(百万円)

	2018年3月期		2019年3月期			
	(実績)	構成比	(予想)	構成比	増減額	対前期比
売上高	669,596	100.0%	686,700	100.0%	17,103	102.6%
営業利益	14,305	2.1%	16,500	2.4%	2,194	115.3%
経常利益	14,291	2.1%	16,500	2.4%	2,208	115.5%
親会社株主に帰属する 当期純利益	10,531	1.6%	10,000	1.5%	△ 531	95.0%



# 事業セグメント別業績予想

## ■ 主要3事業で増収増益を予想

(百万円)

	2018年3月期 (実績)	2019年3月期 (予想)	増減額	対前期比
売上高	669,596	686,700	17,103	102.6%
I Tインフラ流通事業	582,700	597,900	15,200	102.6%
繊維事業	71,021	73,000	1,979	102.8%
工作・自動機械事業	11,972	12,800	828	106.9%
その他事業	3,902	3,000	△ 902	76.9%
営業利益	14,305	16,500	2,194	115.3%
I Tインフラ流通事業	9,927	11,800	1,873	118.9%
繊維事業	3,309	3,600	291	108.8%
工作・自動機械事業	931	1,000	69	107.4%
その他事業	135	100	△ 35	74.1%

# 新中期経営計画「イノベーション21」 第三次計画について



# 中期経営計画「イノベーション21」 第二次計画（2016/3期～2018/3期）の振り返り

## 「社会インフラ」領域でのグループ経営

### （1）ITインフラ流通事業

No. 1 ITディストリビューターとしての強みの発揮、  
地域密着型営業とローコストオペレーションにより、大きく売上、利益を伸長

### （2）繊維事業

衛生材料分野の需要増と国内工場の増強投資、また原燃料の低減効果で収益拡大、  
赤字事業からの撤退で事業構造改革は完了

### （3）工作・自動機械事業

工作機械と自動機の再編、工場の効率化によるコストダウンを推進

# 今後の課題

## (1) ITインフラ流通事業

- Windows7リプレイス需要の囲い込み
- サブスクリプションビジネスの推進
- 文教市場におけるICT環境整備に向けた販売パートナー支援

## (2) 繊維事業

- 合繊綿増強投資後の円滑な稼働
- 国内外向け機能性レーヨン綿の拡大

## (3) 工作・自動機械事業

- 米国・中国を中心とした海外事業拡大
- 生産体制の増強や効率化による収益の確立



# 新中期経営計画「イノベーション21」 第三次計画（2019/3期～2021/3期）の位置づけ

---

**ITインフラ流通を主軸とした幅広い社会貢献型経営**

---

**収益基盤を活用した積極的な事業展開**

---

**新たなビジネス創造への挑戦期間**

---

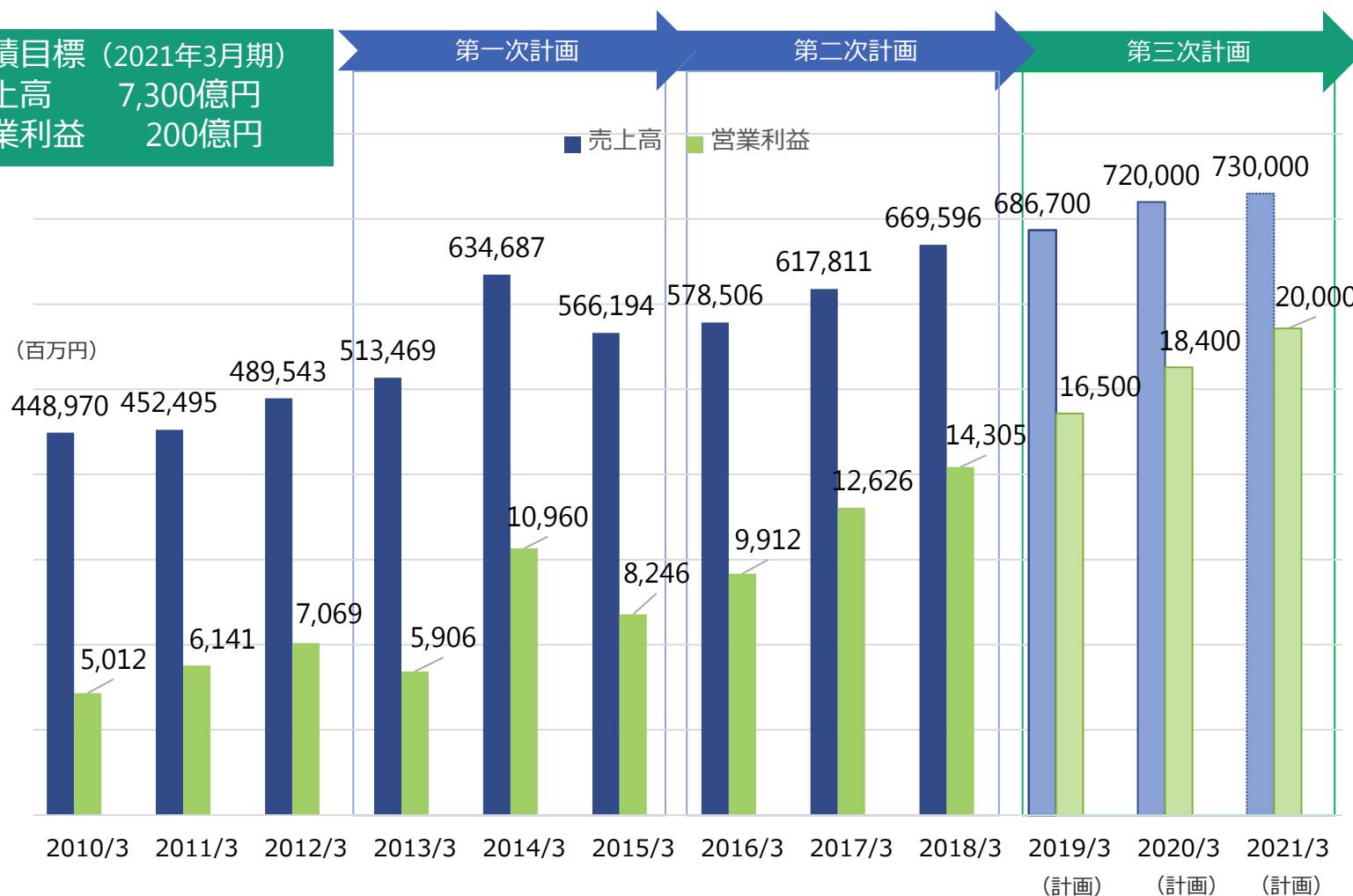
# 新中期経営計画「イノベーション21」 第三次計画（2019/3期～2021/3期）の基本方針

## 基本方針

- (1) ITインフラ流通事業の更なる拡大
- (2) 繊維および工作・自動機械事業での収益力強化
- (3) コーポレート戦略推進による連結企業価値向上

# 新中期経営計画「イノベーション21」 第三次計画（2019/3期～2021/3期）の業績目標

業績目標（2021年3月期）  
売上高 7,300億円  
営業利益 200億円



# ITインフラ流通事業の戦略

## 重点戦略と施策

### ① 既存事業強化・拡大

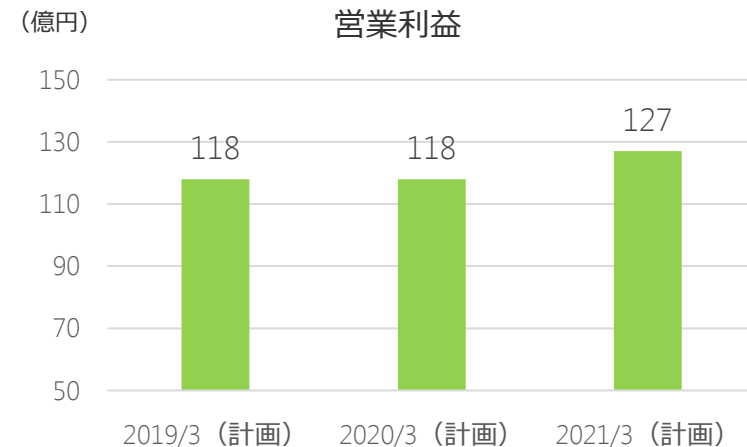
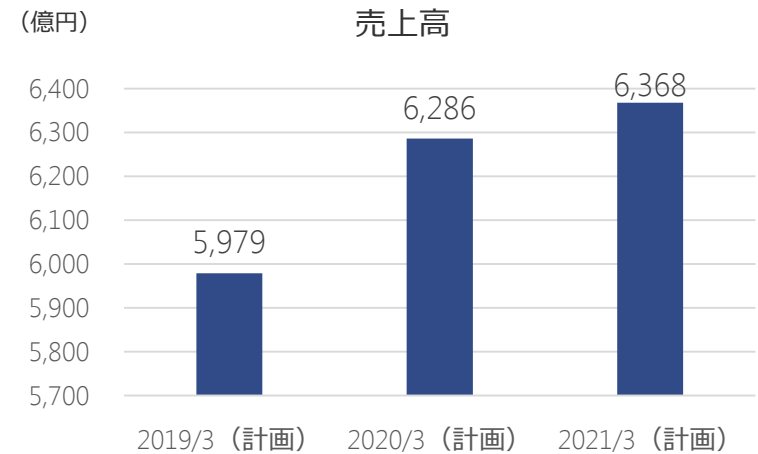
- エンドユーザーにフォーカスした活動
- コアとなるPC、サーバーのシェア拡大と新規市場開拓
- 高度化商材拡販に向けた技術力向上と販売パートナーの育成

### ② 市場創造

- iKAZUCHI機能拡充によるサブスクリプション型ビジネスの拡大
- 販売パートナー網整備による文教市場でのシェア向上
- モバイルデバイスの新たな利活用推進・提案による需要創出

### ③ 業務改革

- 物流効率化、電子商取引拡大等ローコストオペレーション追求
- 情報システム強化による業務効率化と生産性向上
- 働き方改革など労働環境整備



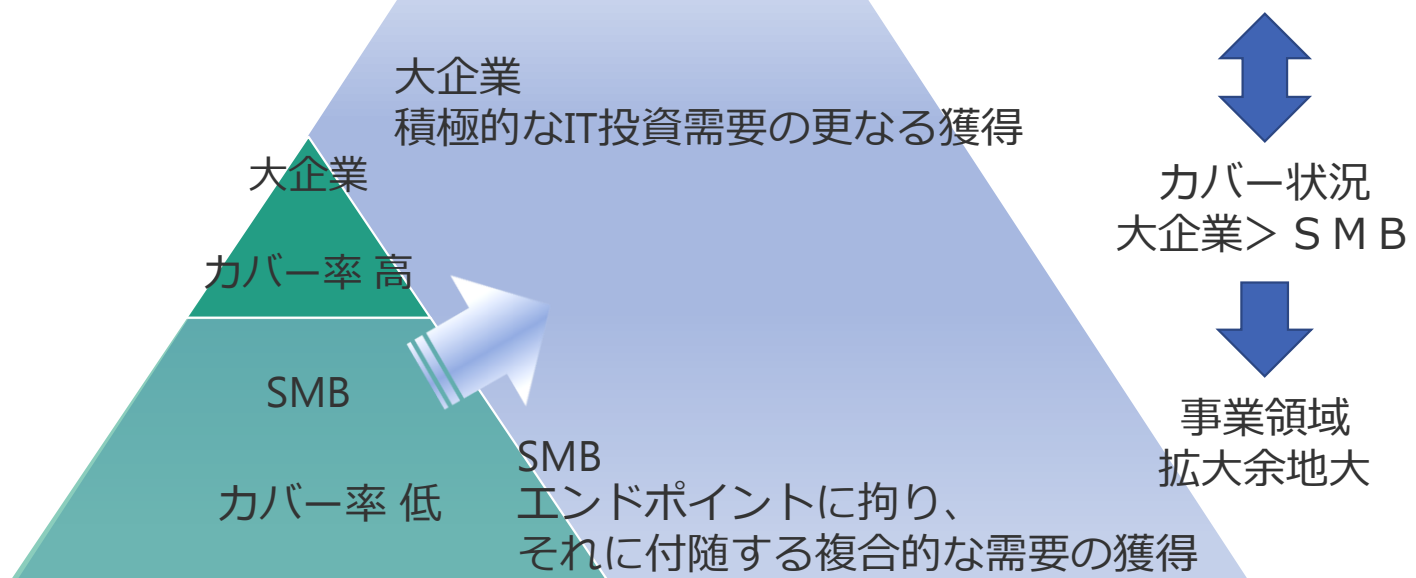


# 重点戦略① 既存事業強化・拡大 -エンドユーザーフォーカス-

## 大企業への更なる深耕とSMB市場の開拓

(常用雇用者数)

10人～999人 (SMB)	432,118社
1,000人以上 (大企業)	3,849社



企業数の出典：総務省・経済産業省「平成28年経済センサス-活動調査結果」(速報)  
(<http://www.stat.go.jp/data/e-census/2016/kekka/gaiyo.html>)

## 重点戦略② 市場創造

### －サブスクリプション型ビジネスの拡大－

#### サブスクリプション管理ポータル iKAZUCHI(雷)の推進

クラウドビジネスを進める上で、月額課金や年額課金、従量課金などの様々なクラウドサービスの提供形態に対応した販売店様向けサブスクリプション管理ポータル。



利用しているサービスと  
ライセンス



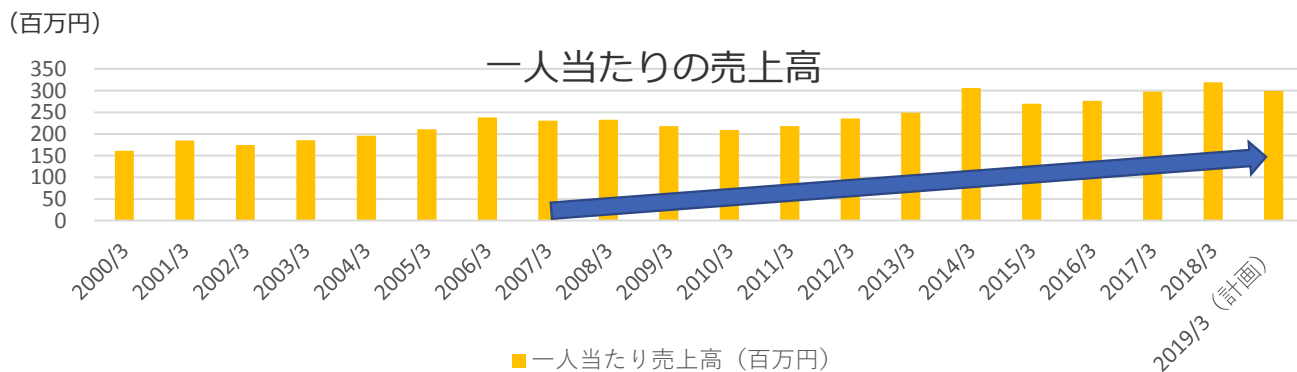
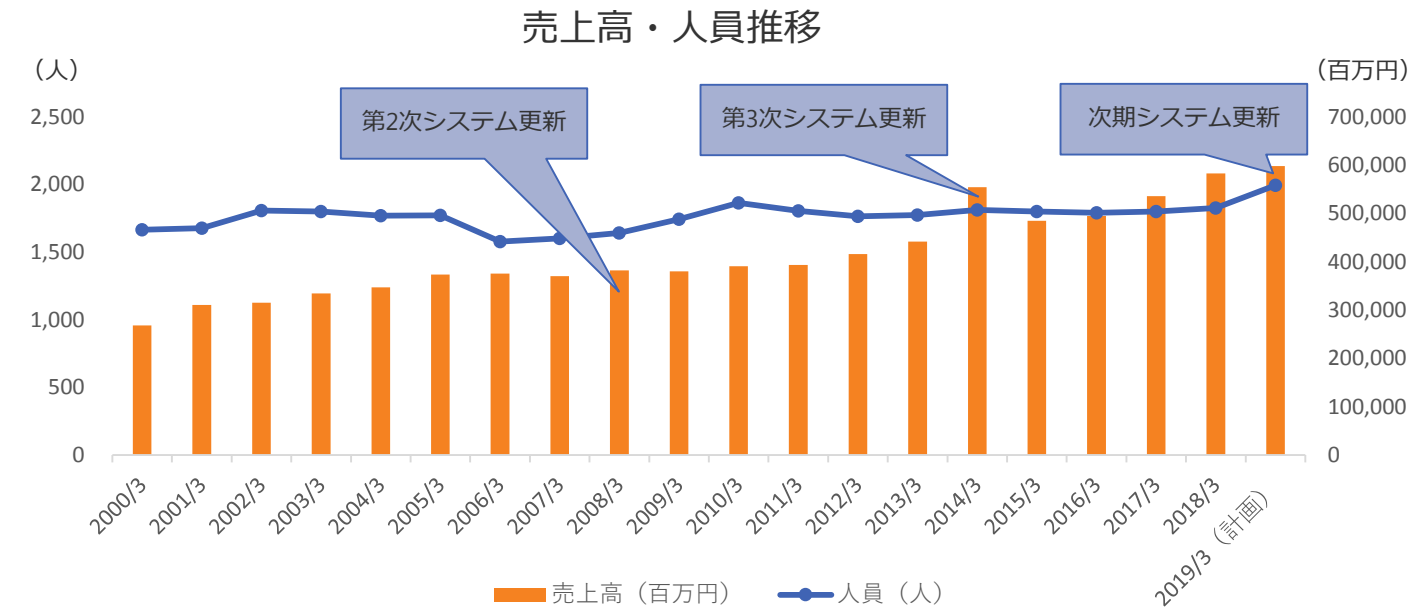
従量課金サービスの  
最新の使用状況



利用状況に応じた  
ご請求内容の管理

# 重点戦略③ 業務改革

## —情報システム強化による業務効率化と生産性向上—



# 繊維事業の戦略

## 重点戦略と施策

### ①合織・レーヨン事業

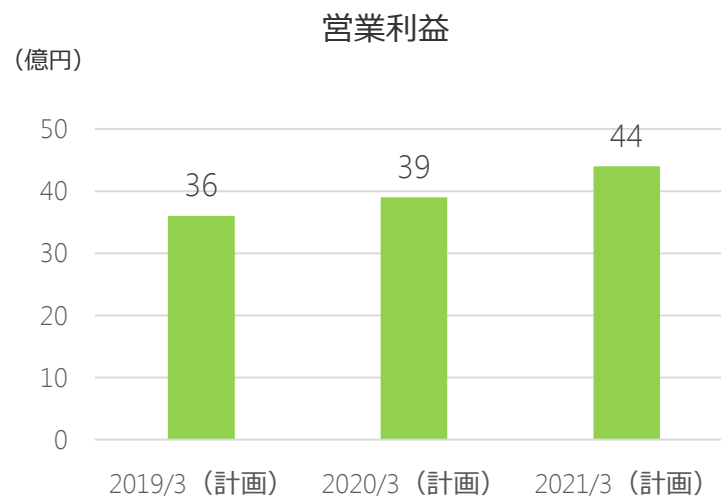
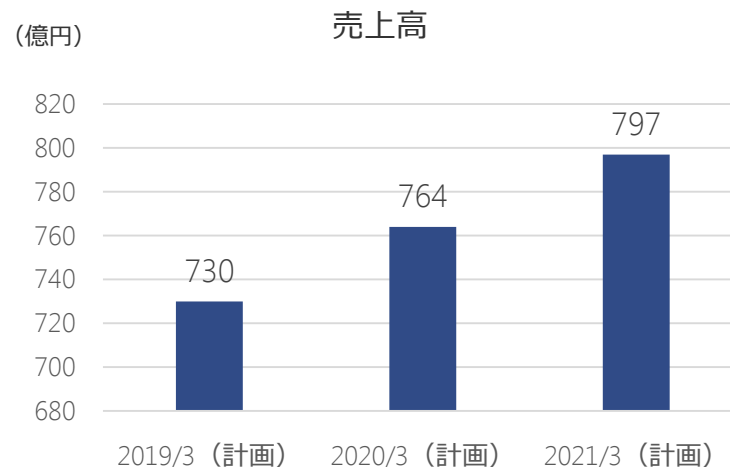
- 国内増産効果およびアジアの不織布拡大で衛生材料分野の伸長
- 高付加価値商品の展開で事業領域の拡大
- レーヨン分野は機能・差別化ワタの拡大と川下戦略の推進によりコスメ関連の製品化を加速

### ②産業資材事業

- フィルター、土木資材、ベルト関連の新商品展開
- 海外生産拠点での地産地消ビジネスを進展
- オリンピック関連の受注強化および粘着加工品など戦略商品に注力

### ③製品事業

- 開発機能剤等の活用による新たな事業領域への展開
- ファイバー戦略を軸とした開発提案型の営業強化
- 新規ブランド投入により、既存小売先の収益維持・拡大



# 重点戦略 合繊部門

## ■ 国内増産効果およびアジア不織布拡大で衛生材分野の伸長

マーケット動向：中国を含むアジアでの衛生材や  
コスメ関連需要の拡大

大型投資後の増産体制  
による収益拡大

差別化商材投入による  
コスメ市場での製品拡販

インドネシア生産拠点と  
大和紡績香港との連携に  
よる事業領域拡大

# 工作・自動機械事業の戦略

## 重点戦略と施策

### ① 営業基盤の拡充

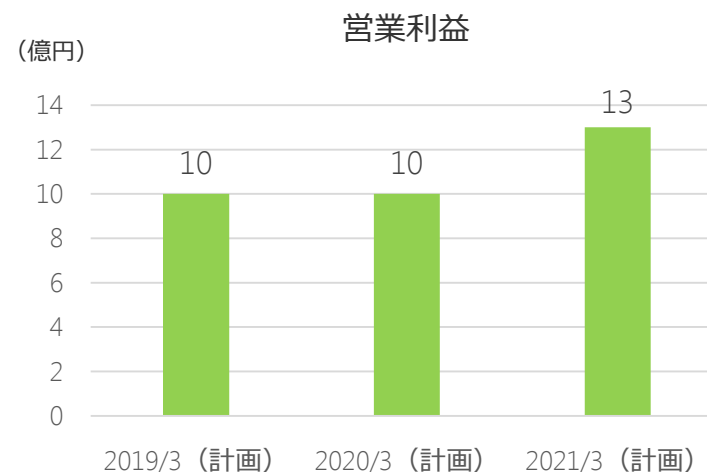
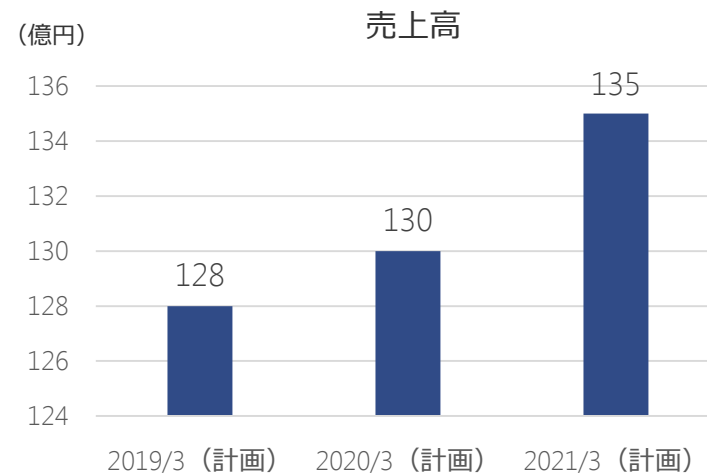
- 国内主力業界への技術提案力の強化
- 北米におけるディーラー・サービス網の整備・拡充
- アジア地域での需要取込み、エンジニアリングの強化

### ② 収益体質の確立

- 生産効率向上への積極投資
- コスト・品質の競争力強化
- アフターサービスの強化、西日本サービス拠点新設

### ③ 新規事業の創造

- 市場ニーズに適した戦略的商品開発
- ダイワボウグループ連携によるIoTやAIを活用した商品開発
- 外部パートナーとのアライアンス推進





# 重点戦略 工作・自動機械部門

- 生産効率向上への積極投資による、コスト・品質の競争力強化

マーケット動向：工作機械業界は17年度活況に推移

航空機エンジン向けを中心に需要継続

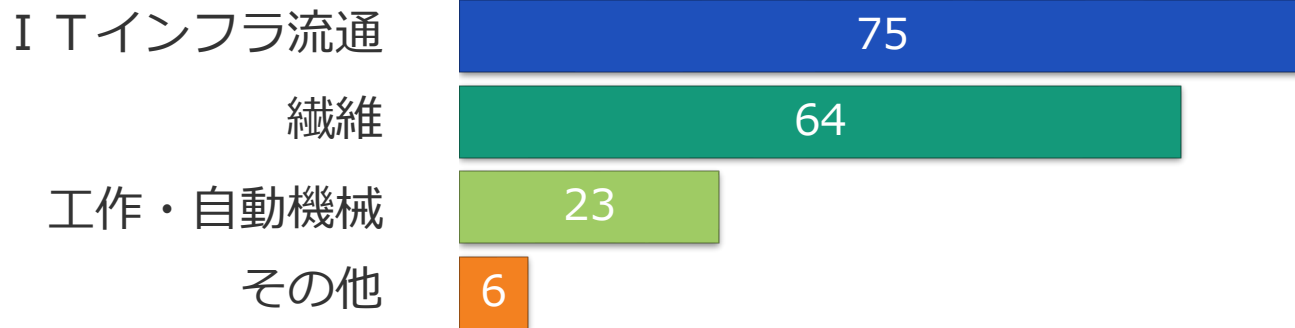
営業基盤の拡充による  
需要の取込み

生産効率向上への積極  
投資による収益拡大

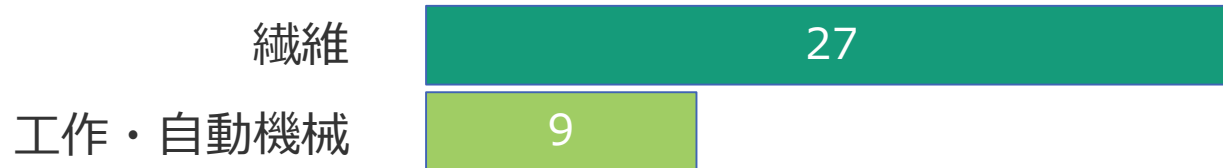
高度化や自動化ニーズ  
への技術開発

# コーポレート戦略 資源配分方針

第三次計画 設備投資額 168億円



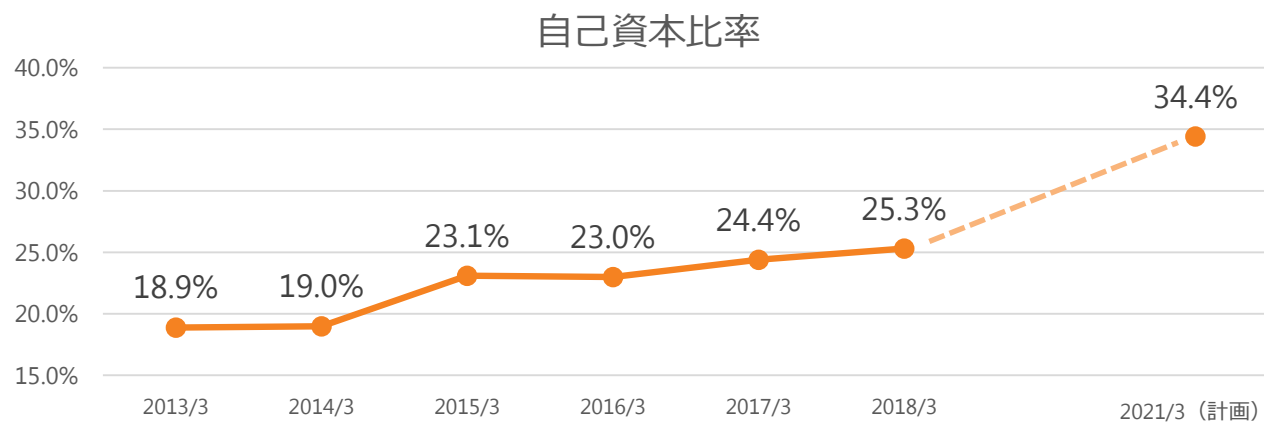
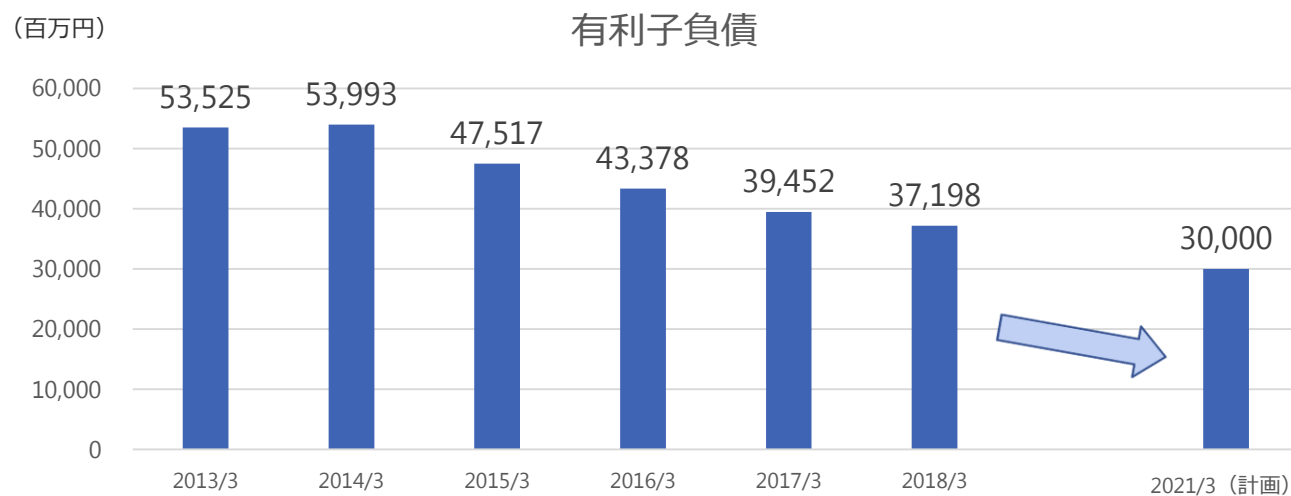
研究開発費 36億円





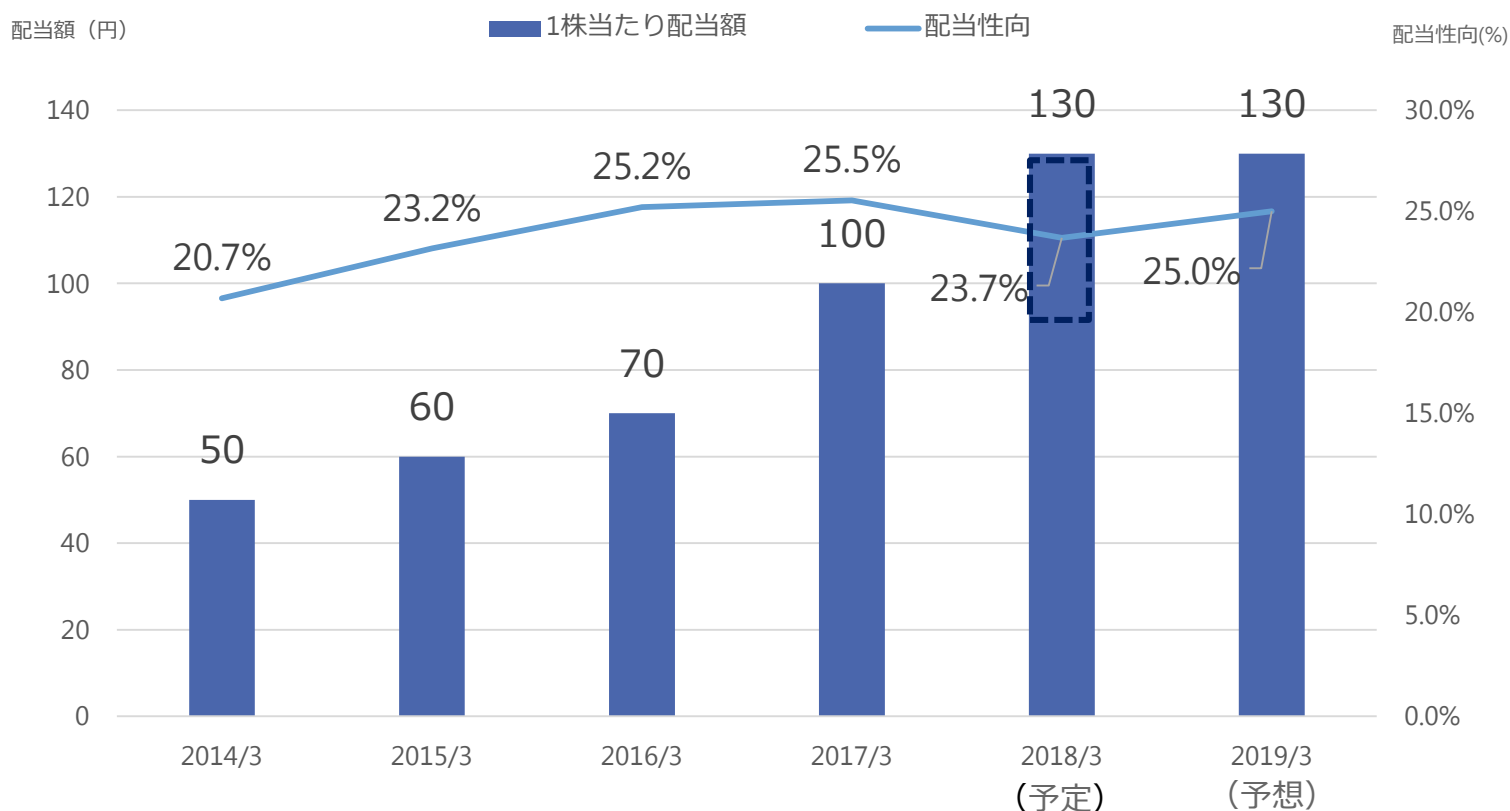
# 財務戦略

## 【財務目標】



# 株主還元

- 18/3期 1株当たり期末配当金を90円から130円に修正
- 19/3期 年間配当金は、1株当たり130円を予想



(注) 2017年10月1日に単元株式数を1,000株から100株に変更するとともに、株式について10株を1株への併合を実施

(注) 配当額については全て併合後に換算して表示しております

# ご参考資料

# 沿革

1941年4月 錦華紡績、日出紡織、出雲製織および和歌山紡織の4社合併し、

## 大和紡績株式会社(本社/大阪市)として新発足

1949年5月 東京証券取引所に株式上場

7月 大和機械工業(現株式会社オーエム製作所)を設立

1963年3月 播磨工場にポリプロ設備新設

1971年6月 プリマテキスコ・インドネシアを設立

6月 ダイワシザイ株式会社(現ダイワボウプログレス株式会社)を設立

9月 霧島国際ホテル開業

1982年4月 ダイワボウ情報システム株式会社を設立

1988年2月 ダイワボウレーヨン株式会社を設立

1994年3月 ダイワボウポリテック株式会社を設立

10月 蘇州大和針織服装有限公司を設立

1998年1月 ダイワボウ・インダストリアル・ファブリックス・インドネシアを設立

2002年1月 ダイワボウアドバンス株式会社を設立

2004年1月 カンボウプラス株式会社と経営統合

2005年10月 大和紡工業(蘇州)有限公司を設立

12月 ダイワボウアソシエ株式会社を設立

2006年1月 会社分割により、全事業部門を「ダイワボウノイ株式会社」

「ダイワボウプログレス株式会社」「ダイワボウポリテック株式会社」

「ダイワボウエステート株式会社」に承継させ、純粋持株会社となる

2007年1月 ダイワボウ・シーテック・インドネシアを設立

2009年4月 ダイワボウ情報システム株式会社と経営統合

2009年7月 ダイワボウホールディングス株式会社に商号変更

7月 中間持株会社「大和紡績株式会社」を設立

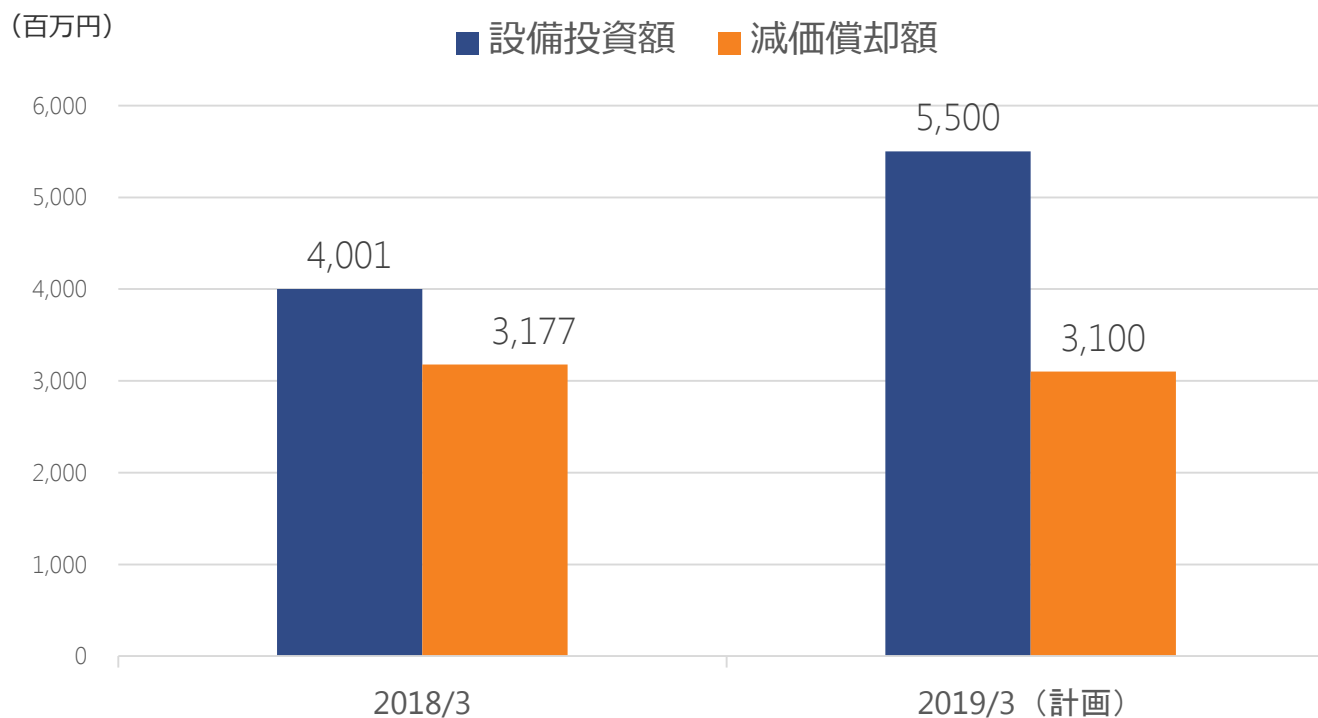
2011年3月 ダイワボウ・ガーメント・インドネシアを設立

2011年7月 株式会社オーエム製作所と経営統合

2012年4月 Daiwabo Hong Kong Co., Limitedを設立

12月 ダイワボウ・ノンウーブン・インドネシアを設立

# 設備投資額 減価償却額の計画値





# 免責事項

本資料に記載された業績予想値等の将来に関する記述は、現時点で入手可能な情報をもとに、当社が合理的であると判断した一定の前提に基づいて作成したものであり、その正確性を保証するものではありません。

本資料の利用の結果生じたいかなる損害についても、当社は一切責任を負いません。